

**母性看護学**

**母性看護学実習**

### 1. 母性看護学実習の目的

妊産婦、褥婦および新生児とその家族に対して、次世代の健全な育成に向けた切れ目ない支援をするための基礎的能力を培う

### 2. 実習目標

- 1) 対象の経過に応じた変化を理解することができる
- 2) 対象の経過に応じた看護を理解することができる
- 3) 親になることへの支援について考察することができる
- 4) 地域で生活する母子とその家族を理解し、社会資源や支援について考察することができる
- 5) 実習を通じて生命の尊さや家族看護について考察することができる

### 3. 評価の観点

目標	観点		
	知識・技能	思考・表現・判断	主体的に学習に取り組む態度
1) 対象の経過に応じた変化を理解することができる (1) 母性の経過に応じた変化を理解することができる	○		
1) 対象の経過に応じた変化を理解することができる (2) 新生児の経過に応じた変化を理解することができる	○		
2) 対象の経過に応じた看護を理解することができる	○	○	
3) 親になることへの支援について考察することができる		○	○
4) 地域で生活する母子とその家族を理解し、社会資源や支援について考察することができる		○	○
5) 実習を通じて生命の尊さや家族看護について考察することができる		○	○

#### 4. 実習目標・学習項目・学習方法

実習目標	学習項目	学習方法
1) 対象の経過に応じた変化を理解することができる	(1) 母性の経過に応じた変化を理解する <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎情報を収集する</li> <li>・妊娠期の経過をアセスメントする</li> <li>・分娩期の経過をアセスメントする</li> <li>・産褥期の経過（退行性変化・進行性変化）をアセスメントする</li> <li>・褥婦の観察を行う</li> <li>・観察した結果からその日の褥婦の健康状態を評価する</li> <li>・褥婦とのコミュニケーションを取る</li> </ul> (2) 新生児の経過に応じた変化を理解する <ul style="list-style-type: none"> <li>・児の出生までの発育状況をカルテから情報収集する</li> <li>・出生直後の健康状態を評価する</li> <li>・児の子宮外適応を評価する</li> <li>・新生児の観察を行う</li> <li>・観察で得られたデータから生理的変化か逸脱かをアセスメントする</li> </ul>	<b>母性 1 用紙①②</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースに沿って情報収集を行う</li> <li>・情報は妊娠期の経過については母子手帳・電子カルテ（基礎情報）、分娩期の情報については電子カルテ・パクトグラムを用いて情報収集する</li> <li>・バースデープランについてはコミュニケーションや紙カルテの中から情報収集する</li> </ul> <b>母性 2 用紙・母性 3 用紙</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の経過を観察し、一般的な経過をもとに母親の産褥期・新生児の経過をアセスメントする</li> <li>・アセスメントの際は、正常・異常だけでなくウェルネス思考をもとにアセスメントする</li> <li>・展開上、タイムリーな観察ができなかった場合はカルテをもとに事後に情報収集しアセスメントする</li> </ul>
2) 対象の経過に応じた看護を理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来・病棟での妊娠期から産褥期までの看護活動について学ぶ</li> <li>・分娩見学の中で看護職者の看護活動を学ぶ</li> <li>・産褥期の経過に応じた看護活動について学ぶ</li> <li>・新生児の日齢に応じた看護活動について学ぶ</li> </ul>	<b>母性 2 用紙・母性 3 用紙</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の経過に応じて母子に必要な看護目標・計画を記載し看護職者とともに実践する</li> <li>・標準プランについては、実習までの事前学習とし、受け持ちの情報をふまえて必要な点を追記する</li> <li>・実践については学生単独で行わず指導者のもとで実施する</li> </ul> <b>母性 4 用紙</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来見学・分娩見学については体験シート（母性 4 用紙）に記載する</li> <li>・分娩見学は全員の見学ではないため、貴重な体験の中で得た気づきを他の学生と共有する</li> </ul>

<p>3) 親になることへの支援について考察することができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職者の母親への育児支援、家族への支援を見学し親になることへの支援や家族のQOLについて考える</li> <li>・バースデープランや褥婦とのコミュニケーションから情報収集する</li> <li>・母親がどんな育児を望んでいるかを捉える</li> <li>・育児支援の実際を学ぶ</li> <li>・母親の役割獲得</li> <li>・母親と児との関わり場面からアタッチメント、ボンディングについて考える</li> <li>・家族の望むよりよい生活について考える</li> </ul>	<p><b>母性1用紙</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バースデープランについてはコミュニケーションや紙カルテの中から情報収集する</li> </ul> <p><b>母性6用紙（まとめ用紙）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンファレンスの中で、家族の望むよりよい生活をテーマにカンファレンスを行う。その際には母親と児との関わりからアタッチメントやボンディングについてどのように考えたのか発表を行う</li> </ul>
<p>4) 地域で生活する母子とその家族を理解し、社会資源や支援について考察することができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院での活動（妊婦健康診査・乳幼児健診、両親教室）を知り、支援について学ぶ</li> <li>・子育て支援機関での活動を知り、支援について学ぶ</li> <li>・地域のなかでの子育て体制</li> <li>・それぞれの場における職種を知る</li> <li>・地域の中での多職種連携の必要性について考える</li> </ul>	<p><b>事前学習・母性5用紙</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に自身の居住地域における子育て支援活動について調べる</li> <li>・病院での活動（外来）を見学する 妊婦健診、産婦健診、乳幼児健診がどのような法的根拠に基づいているのか、対象、内容について事前学習し見学する</li> <li>・病院外での活動（京都市地域子育て支援ステーション事業所）を見学する</li> <li>・地域の維持力向上を図る活動を見学し、地域の中での子育て支援の実際を学ぶ。また、その中で、医療者だけでなく、地域の中で多職種がどのように連携しているのか学ぶ</li> </ul>
<p>5) 実習を通じて生命の尊さや家族看護について考察することができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象とのかかわりから生命の誕生に感じたことを述べる</li> <li>・分娩見学ができた場合は、母性4の中で学びを記載する</li> <li>・最終カンファレンスでマタニティサイクルにおける家族支援について話し合う</li> </ul>	<p><b>母性6用紙（まとめ）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習での体験を通して、学んだことを記載し、学生間で共有する</li> <li>・また最終カンファレンスでは家族看護についてディスカッションを行う</li> </ul>

## 5. 実習展開

### 1) 実習展開 臨地実習 56 時間 学内実習 24 時間

実習日	実習内容	カンファレンス	学習課題
2 時間	領域別実習オリエンテーション ※3年次または4年次の履修対象者別に共通で行う		事前学習1の追加 【教科書の準備】
1 日目 6 時間	学内実習 1 施設オリエンテーション 沐浴技術試験	なし	沐浴練習表
2 日目 8 時間	学内実習 2 事例の母子を支援するうえで必要な知識・技術を確認する① 事前学習をもとにカンファレンスを行う	「自身の居住する地域の子育て支援について」	事前学習3の追加 【自身の居住する地域の子育て支援】
3 日目 8 時間	臨地実習 【子育て支援ステーション事業】 子育て支援ステーションに行き、実際の支援の実際を見学 はじめて赤ちゃん応援 ちびっこらんど ベビーマッサージ マタニティヨガ パパママクラス	「切れ目のない子育て支援とそのためにより必要な職種連携について考えたこと」	母性4用紙の追加 【施設の特徴・母子保健に関する統計】 母性5用紙
4 日目 8 時間	学内実習 3 事例の母子を支援するうえで必要な知識・技術を確認する②		母性4用紙 【外来見学】 事前学習
5 日目 8 時間	臨地実習 【外来実習】 ※病棟実習前週に外来見学をする 妊婦健診・乳幼児健診		母性4用紙
6 日目 8 時間	臨地実習 【病棟1日目】 病棟オリエンテーション 受け持ち褥婦の決定 褥婦・新生児の観察（見学・一部実施） 分娩見学	病棟の特徴と安全について	母性1用紙 ※分娩見学があれば母性4用紙を使用する
7 日目 8 時間	臨地実習 【病棟2日目】 自身の計画と病棟のスケジュールやその日の状況に応じた看護の実践	「受け持ち褥婦・児の経過と今後必要な看護について」	母性1用紙 母性2・3用紙
8 日目 8 時間	臨地実習 【病棟3日目】 自身の計画と病棟のスケジュールやその日の状況に応じた看護の実践	「受け持ち家族の望むよりよい生活とは」	母性2・3用紙
9 日目 8 時間	臨地実習 【病棟4日目】 自身の計画と病棟のスケジュールやその日の状況に応じた看護の実践	自由に設定する	母性2・3用紙 母性6用紙
10 日目 8 時間	臨地実習 【病棟5日目】 （午前）状況に応じた看護の実践 〈午後〉実習のまとめ 記録の提出	最終カンファレンス 「実習を通して学んだこと」	母性2・3用紙

## 6. 学内実習展開について

目的：臨地実習の目的・目標を理解し、学びを深めるために必要な基本的知識や技術の習得をめざす

時期：原則臨地実習前の2日間。(時期は事前に確認すること)

日程	時間	内容	技術内容
領域実習 開始前	2時間	領域別実習オリエンテーション 実習の目的 実習展開について 事前学習の提出・確認	
1日目	6時間	学内実習 施設オリエンテーション 沐浴技術試験	新生児の沐浴 (個人技術試験)
2日目	8時間	学内実習 事例の母子を支援するうえで必要な知識・技術を確認する① カンファレンス 「自身の居住する地域の子育て支援について」	新生児のバイタルサイン ポジショニング 抱っこ・授乳の方法 レオポルド触診 子宮底の観察
4日目	8時間	学内実習 事例の母子を支援するうえで必要な知識・技術を確認する②	NSTの確認 胎盤の観察

- ・沐浴は各自テストをするのでその日までにメンバーで練習をしておくこと
- ・学内実習のスケジュールはその都度異なるため学生は事前に確認しておくこと
- ・学内実習の演習や学習の内容は上記を参考に学生間でも検討しておくこと

## 7. 実習展開上の留意点

### 1) 事前学習について

内容	提出期限
1) 【教科書の準備】 各自付箋・マーカーをして自分にとって分かりやすい教科書を準備する	領域別実習オリエンテーション時
2) 【沐浴練習表】 学内実習までに各自練習し提出する	学内実習1日目
3) 【自身の居住する地域の子育て支援について】 上記についてA4用紙にまとめておく 法律についてもまとめておくとい	学内実習2日目
4) 【施設の特徴・母子保健に関する統計】 見学する京都市子育て支援ステーション事業について、また母子保健に関する統計について厚生労働省の資料を基に調べておく	学内実習2日目
5) 【外来見学】 妊婦健診・乳幼児健診について項目・方法を調べておく	学内実習2日目 母性—4用紙に記載する
6) 【分娩見学】 分娩見学の目標を記載する 分娩・出生直後の児のケア 胎盤についてまとめる	臨地実習開始まで 母性—4用紙に記載する

## 2) 受け持ち対象について

原則 2～3名で1組の母児を受け持つ。ただし、受け持ちの対象がない場合は、日々の状況に応じて項目実習とする

主な項目実習

- ・分娩期の実習（分娩第1期の看護、分娩見学、出生直後の児のケアの見学、胎盤見学）
- ・早期新生児の項目実習（児の観察と日齢に応じた健康状態のアセスメント）
- ・外来実習（妊婦健康診査 助産師外来での見学実習）
- ・健診の見学（2週間健診、1か月健診）
- ・保健指導の見学（母児同室指導、退院指導、両親教室 など）

プレコンセプションケア、セクシュアル・リプロダクティブヘルスなどの学習 など

## 3) 分娩期の実習（分娩見学、出生直後の児のケアの見学、胎盤の見学）

分娩期の実習はいつ体験できるかわからない。

そのため、実習開始までに分娩見学について事前に学習を行う（母性—4）。

また分娩期の看護としてどのような看護が必要か、何を学びたいかを記載しておく。

## 母性看護学実習 ルーブリック

	評価規準	キーワード	評価資料	評価基準 (尺度)			
				S	A	B	C
実習目標 1	1) 対象の経過に応じた変化を理解することができる (1) 母性の経過に応じた変化を理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎情報</li> <li>・妊娠期の経過</li> <li>・分娩期の経過</li> <li>・産褥期の経過 (退行性変化・進行性変化)</li> <li>・妊娠期から産褥期の経過</li> <li>・経過に応じた健康状態の評価</li> <li>・褥婦とのコミュニケーション</li> </ul>	対話 観察 看護実践 報告内容 カンファレンス 記録用紙	看護職者との実践や記録、データなどの基礎情報を基に、経過に応じた心身の変化を捉えることができ、予測もできている メカニズムについて一般的な説明だけでなく、これまでの経過やデータを基に説明できている	看護職者との実践や記録、データなどの基礎情報を基に、経過に応じた心身の変化を捉えることができている メカニズムについて一般的な説明だけでなくこれまでの経過を基に説明できている	必要な情報収集ができ心身の変化を捉えることができる またその一般的なメカニズムについても説明することができる	必要な情報収集ができ心身の変化のアセスメントは不十分である。 メカニズムについて説明しようとしているが不十分である。
	1) 対象の経過に応じた変化を理解することができる (2) 新生児の経過に応じた変化を理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出生までの発育状況</li> <li>・出生直後の健康状態</li> <li>・児の観察</li> <li>・児の健康状態、子宮外適応の評価</li> </ul>	対話 観察 報告内容 カンファレンス 記録用紙	看護職者との実践を通して出生までの発育状況、出生直後のデータから新生児の変化 (健康状態・子宮外適応) を捉えることができ、予測もできている メカニズムについて一般的な説明だけでなく新生児のこれまでの経過やデータを基に説明できている	看護職者との実践を通して出生までの発育状況、出生直後のデータから新生児の健康状態、子宮外適応ができているかについてアセスメントできている メカニズムについて一般的な説明だけでなく新生児のこれまでの経過やデータを基に説明できている	必要な情報収集ができ健康状態、子宮外適応ができているかについてアセスメントできている。 またその一般的なメカニズムについても説明することができる	必要な情報収集できず、健康状態のアセスメントは不十分である。 メカニズムについて説明しようとしているが不十分である。
実習目標 2	対象の経過に応じた看護を理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠期から産褥期までの切れ目のない看護活動 (外来・病棟)</li> <li>・妊娠期の看護活動</li> <li>・分娩期の看護活動</li> <li>・産褥期の経過に応じた看護活動</li> <li>・新生児の日齢に応じた看護活動</li> </ul>	対話 看護実践 カンファレンス	妊娠期から産褥期までの看護、新生児の看護をウェルネス思考、科学的根拠に基づいて計画できる 考えることができる また看護職者との実践、学生が主体的に一部実践できる	妊娠期から産褥期までの看護、新生児の看護を科学的根拠に基づいて計画でき看護職者と実践できる	看護職者との実践または見学を通して妊娠期から産褥期までの看護、新生児の看護を考慮することができる また科学的根拠に基づいて考えることができる	看護職者との実践または見学を通して妊娠期から産褥期までの看護、新生児の看護を考慮しようとしているが、不十分である
実習目標 3	親になることへの支援について考察することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護職者の褥婦への育児支援、家族への支援</li> <li>・親になることへの支援や家族の望むよりよい生活</li> <li>・パーステンプラン</li> <li>・母親役割の獲得</li> <li>・母親がどんな育児を望んでいるか</li> <li>・母親と児のアタッチメント、ボンディング</li> </ul>	観察 対話 看護実践 カンファレンス	母親だけでなく家族の望むよりよい生活への支援について考えることができている 褥婦の心理的状態を把握し母児の相互作用、母子関係の促進に向けた支援を考慮することができる 母親役割獲得の状況を把握し必要な看護について考えることができる	母親だけでなく家族がどんな育児を望んでいるか捉えることができ、基本的な育児技術を獲得するためにどのような支援が必要が考えることができている。 また母児との関わりの中で愛着形成、母児相互作用について捉えることができる	基本的な育児技術について説明することができる 児への愛着形成、母子相互作用について説明することができる	母親がどんな育児を望んでいるか捉えることはできている 基本的な育児技術について説明しようとしているが不十分さを残す 児への愛着形成、母子相互作用について説明しようとしているが不十分である。
実習目標 4	地域で生活する母子とその家族を理解し、社会資源や支援について考察することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院での活動 (妊婦健康診査・乳幼児健診・両親教室) と支援</li> <li>・子育て支援機関での活動と支援</li> <li>・母性看護における多職種連携</li> <li>・地域になかでの子育て支援</li> <li>・妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援</li> </ul>	観察 対話 カンファレンス	地域の子育て支援について説明できる。 それぞれの場における職種と活動を捉えており、支援の位置づけやそれぞれの役割、連携について説明できる。 妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援について説明できるとともに、女性のライフサイクルにおける支援についても考えることができる	地域の子育て支援について説明できる。 それぞれの場における職種と活動を捉えており、支援の位置づけやそれぞれの役割について説明できる。 実習施設で行われた妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援について具体的な内容をもとに説明できる	地域の子育て支援について説明できる。 それぞれの場における職種と活動を捉えており、支援の位置づけやそれぞれの役割について説明できる。	地域の子育て支援について調べている。 それぞれの場における職種と活動を捉えようとしているが、位置づけやそれぞれの役割について説明できない
実習目標 5	実習を通じて生命の尊さや家族看護について考察することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象とのかかわりから生命の誕生について感じたこと</li> <li>・マタニティサイクルにおける家族支援</li> </ul>	対話 カンファレンス	実習を通じて生命について考え、語ることができる。 家族看護とは何か語ることができる。	実習を通じて生命について考え、語ることができる。 家族とは何か考え家族看護の必要性について考えることができる。	実習を通じて生命について考え、語ることができる。 家族とは何か考え、語ることができる。	実習を通じて生命について考えようとしているが、語ることができない。

# 母性看護学実習 評価表

学籍番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

実習施設（病棟） \_\_\_\_\_

実習期間（臨地） 令和 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日（ ） ～ \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日（ ）  
 （学内） \_\_\_\_\_

出席時間数（実時間） \_\_\_\_\_ 欠席時間数（実時間） \_\_\_\_\_

## 総括的評価

\*中間評価はなし

学習活動における評価規準項目		自己評価（最終）	指導者・教員評価
実習目標 1	1 対象の経過に応じた変化を理解することができる 母性の経過に応じた変化を理解することができる	S ・ A ・ B ・ C	S (14) ・ A (12) ・ B (10) ・ C (5)
	2 対象の経過に応じた変化を理解することができる 新生児の経過に応じた変化を理解することができる	S ・ A ・ B ・ C	S (14) ・ A (12) ・ B (10) ・ C (5)
実習目標 2	3 対象の経過に応じた看護を理解することができる	S ・ A ・ B ・ C	S (13) ・ A (12) ・ B (10) ・ C (5)
実習目標 3	4 親になることへの支援について考察することができる	S ・ A ・ B ・ C	S (13) ・ A (12) ・ B (10) ・ C (5)
実習目標 4	5 地域で生活する母子とその家族を理解し、社会資源や支援について考察することができる	S ・ A ・ B ・ C	S (13) ・ A (12) ・ B (10) ・ C (5)
実習目標 5	6 実習を通じて生命の尊さや家族看護について考察することができる	S ・ A ・ B ・ C	S (13) ・ A (12) ・ B (10) ・ C (5)
態度	7 互いに自律し、尊重し、支え合いながら、人間関係を構築・発展できる	S ・ A ・ B ・ C	S (3) ・ A (2) ・ B (1) ・ C (0)
	8 看護師を目指すものとして、心身の健康を自己管理できる	S ・ A ・ B ・ C	S (3) ・ A (2) ・ B (1) ・ C (0)
	9 看護師としての責務を自覚し、対象の意思決定を支え、倫理的な判断を基に看護を実践できる	S ・ A ・ B ・ C	S (3) ・ A (2) ・ B (1) ・ C (0)
	10 チームの一員であることを自覚し、行動に対する責任を持つことができる	S ・ A ・ B ・ C	S (3) ・ A (2) ・ B (1) ・ C (0)
	11 自らの課題を見出し、学び続けることができる	S ・ A ・ B ・ C	S (3) ・ A (2) ・ B (1) ・ C (0)
課題ポートフォリオ 達成度評価（学生）		点 / 5点	
学習活動における評価（指導者・教員）			点 / 95点
*実習成績：秀（とても優れてできる）90点以上、優（優れてできる）89点～80点以上、良（できる）79点～70点以上、可（不十分さを残すができる）69点～60点以上、不可（できない）60点未満			合計点 点 / 100点
評価者	実習指導者 _____ 担当教員 _____		実習成績

母性-1 情報用紙① (基礎情報・妊娠期) 学籍番号 氏名

<p>年齢: 歳 初産婦 ( ) 経産婦 ( ) 回目 → 上の子 ( )</p> <p>身長: cm 非妊時体重: kg → 非妊時BMI: 型 Rh ( )</p> <p>血液型: Rh ( ) 夫の血液型: 型 Rh ( )</p> <p>既往歴: 嗜好品: (喫煙) 有 (アルコール) 有 ( ) 無 ( )</p> <p>その他: 家族歴:</p>	<p>産科既往歴 年 月 日 在胎週数 出生体重 性別 特記事項</p>
<p>婚姻状況: 結婚 年日 未婚 (入籍予定) 家族構成</p> <p>居住区: → 退院後すぐの住まい ( )</p> <p>職業: 有 ( ) 無 ( )</p> <p>産後の予定 (産休・育休・退職・復職・再就職/児の預け入れ先 など)</p> <p>夫の情報 (年齢・職業・生活時間・家事の協力など)</p> <p>家族の情報 *妊娠の受け入れ度など (産婦・夫・上の子・祖父母)</p>	<p>育児の支援者 ( ) 有 ( ) 無 ( )</p> <p>重なり分娩 ( ) 有 ( ) 無 ( )</p> <p>診察・診断</p> <p>マインナートラブル: 無 ( ) 有 ( )</p> <p>切迫早産: 無 ( ) 有 ( )</p> <p>妊娠高血圧症候群: 無 ( ) 有 ( )</p> <p>嚔代肺異常: 無 ( ) 有 ( )</p> <p>その他) 診察や処置: 無 ( ) 有 ( )</p>
<p>妊婦</p> <p>体重 胎位 NSST 所見</p> <p>血液 胎位 NSST 所見</p> <p>検査</p> <p>感染症: HBs 抗原 ( ) HBs 抗体 ( ) HCV 抗体 ( ) HIV ( )</p> <p>HTLV-1 ( ) 梅毒 ( ) 風疹抗体 ( ) GBS ( )</p> <p>貧血: ( w d ) Hb g/dl Ht % → 薬剤処方 無 ( ) 有 ( )</p> <p>( w d ) Hb g/dl Ht % → 薬剤処方 無 ( ) 有 ( )</p> <p>教室受講: 無 ( ) 有 ( ) 育児への思いや希望</p> <p>不妊治療: 無 ( ) 有 ( )</p>	<p>妊娠経過および妊娠経過について</p>
<p>妊娠経過の経過</p> <p>見の経過について</p>	<p>妊娠経過 (産後2時間含む) について</p> <p>出生した児の発育と観察状態について (付属物含む)</p> <p>夫婦の親性や産後の育児について</p>

母性-1 情報用紙② (分娩期の経過) 学籍番号 学生氏名

<p>入院日時) 妊娠 週 日 時 分</p> <p>入院理由) <input type="checkbox"/> 陣痛発来 <input type="checkbox"/> 破水 (状況: ) <input type="checkbox"/> 予定入院 ( 誘発分娩 ・ 帝王切開 )</p> <p>分娩経過) 順調な経過: <input type="checkbox"/> 陣痛の増強 <input type="checkbox"/> 子宮口開大 <input type="checkbox"/> 胎児下降 <input type="checkbox"/> 破水時期</p> <p>特記事項 ( )</p> <p>CTG 所見 (時期) ベースライン bpm / リアクティブ <input type="checkbox"/> / 一過性徐脈: 無 ( ) 有 ( )</p> <p>CTG 所見 (時期) ベースライン bpm / リアクティブ <input type="checkbox"/> / 一過性徐脈: 無 ( ) 有 ( )</p>	<p>分娩の経過</p> <p>陣痛発来 月 日 時 分 分娩の経過</p> <p>破水 月 日 時 分</p> <p>子宮口全開 月 日 時 分</p> <p>児娩出 月 日 時 分</p> <p>胎盤娩出 月 日 時 分</p> <p><input type="checkbox"/> 経膈分娩</p> <p>第I期 ( ) 第II期 ( ) 第III期 ( )</p> <p>分娩所要時間 時間 分</p> <p>会陰癒合: 無 ( ) 有 ( ) 会陰切開・会陰裂傷 ( )</p> <p><input type="checkbox"/> 帝王切開分娩 適応理由</p> <p>産後の種類</p> <p>手術時間 時間 分</p> <p>分娩期出血量 計 ml</p> <p>医療介入: 無 ( ) 有 ( )</p>
<p>その他) 分娩</p> <p>期の特記事項</p> <p>産婦: 無 ( ) 有 ( )</p> <p>新生児: 無 ( ) 有 ( )</p> <p>分娩期の家族</p> <p>分娩の付き添い・見との面会・母子早期接触 など</p>	<p>胎盤: × cm 重量 g 臍帯 cm</p> <p>石灰化: 無 ( ) 有 ( )</p> <p>白色梗塞: 無 ( ) 有 ( )</p> <p>羊水混濁: 無 ( ) 有 ( )</p> <p>羊膜胎膜: 無 ( ) 有 ( )</p>
<p>分娩経過の経過</p> <p>見の経過について</p>	<p>出生した児の発育と観察状態について (付属物含む)</p>
<p>妊娠経過 (産後2時間含む) について</p>	<p>夫婦の親性や産後の育児について</p>



母性-4 項目実習記録  
実習 日目

学籍番号 氏名

項目実習名  
(見学目標)

実施内容に関する事前学習 (スペースが足りない場合は別紙に記載する) と見学内容

見学内容から母性看護について考えたこと

母性-5 施設見学記録  
実習 日目

学籍番号 氏名

施設利用者の特徴やニーズ 施設スタッフの職種

施設で行われている取り組みの実際

妊娠前から子育て期までの家族に必要な切れ目のない支援について考えたこと

母性看護学実習における学び

--

